

令和4年 第10回(定例会)  
厚真町教育委員会会議録

- 1 開会 令和4年8月26日(金)14時30分
- 2 閉会 令和4年8月26日(金)17時00分
- 3 前回会議録の承認
- 4 出席委員の氏名  
遠藤 秀明 長門 茂明 池川 徹 日西 大介 金光 えり
- 5 委員及び傍聴人以外の会議出席者氏名  
生涯学習課長 奥村 与志照  
生涯学習課学校教育担当参事 中村 真吾  
生涯学習課参事 作田 和彦
- 6 会議録署名委員の指名  
( 金光 えり )  
( 日西 大介 )
- 7 教育長報告  
(1) 行事参加等の動向 (資料1)  
【質疑なし】
- 8 所管報告  
学校教育グループ・給食センター  
(1)厚真町防災学習研修会(8月9日)について (資料2)  
(2)学校監査(8月1日/上厚真小学校・厚南中学校)について  
(3)令和3年度会計決算審査(本審査)(8月18日)について (資料3)  
(4)厚真町教育研究所第3回運営委員会(8月19日)について (資料4)  
【質疑】  
池川委員 : 給食の未納者の住所は把握しているか。  
中村参事 : 把握している。  
池川委員 : 請求を出し続けているのか。  
中村参事 : 催告書を通知している。  
池川委員 : 未納が長年続いた場合、何年で処理するといった決めごとはないのか。  
その未納に対応する経費の方が高いのではないか  
教育長 : これは例えば住所が全く掴めない、連絡が全く取れない状況が続けば、  
債権放棄になることがある。しかし、住所がわかって催告書を送っても  
戻ってこないということはそこに居るという前提となる。

連絡がない場合は、センター長と主幹の2人で出向いて、その場所をまず確認し、本人がいれば話をして今後の支払い計画を作成する。  
今回、このような対応で進める予定である。

池川委員 : 回収期間を決めるべきかと思う。2万円を回収するために職員の出張手当などの経費をかけることは無駄とを感じる。  
例えば、10年で回収に係る対応を終了するといったルールを作れないものか。

教育長 : 独自に公共団体が決められるのかどうかは確認しなければならないし、町長部局とも協議をしなければならない。  
今回について、住所は把握しているので出向いて現状を確認してくる。

池川委員 : 給食費で未納はこれのみか。

中村参事 : この方1件のみである。

教育長 : 数年前に住所不明で回収不能となった案件があったが、町議会により債権放棄が議決された例もある。  
今回の者について、当時はまだ十数万円あったが、少しずつ支払いながら現在に至る。

池川委員 : 払っていて残債が2万1千円なのか。

教育長 : その通りである。

池川委員 : 払う意思もあるという事か。

教育長 : 当時は払っていたこともあったが僅か半年分とか何らかの事情があったとは思いますが。悪意を持って払わない方もいるし、その時の事情で何らかの形で払えなくなったり、後は転居されたりして連絡が取れなくなったり、一度忘れていたりして放置していたらなんの音沙汰もないからそのままずっと続いているというパターンもあるかもしれない。

池川委員 : 給食費だから何か差し押さえするというのはできないのか。

中村参事 : 簡易裁判所の手続きになる。

池川委員 : 経費はかかるのか。

中村参事 : 経費はかかる。今回のケースはまず把握している住所に実在するかを確認して、本人と分納という方法も含めて支払いについて交渉する。可能な限り滞納者と接触するよう監査員からも指示されている。  
滞納がおきた場合は、納付のお願いを通知して、1か月通知しても納付がなければ再度、連絡を取るようになっている。現年度分については滞納はない。

池川委員 : 今後、徴収に関わるルールを作成することがいいと思う。

中村参事 : 育英資金も含めてルールづくりを考えていきたい。

教育長 : 現在はこの1件だけ。平成20年度以降はない。現役世代の方々において滞納はない。

金光委員 : 保護者の方にとということか。

教育長 : そうである。

金光委員 : 給食を食べていた子に債務はないということか。

中村参事 : その通りである。

#### 社会教育グループ

(1)「メディアコントロールチャレンジ」(1回目)

(2)「世界の昆虫展」7月22日(金)～8月17日(水)

／青少年センター／見学者373人

(3)夏休み水泳教室(小1～4年対象)

〈上厚真小学校〉

7月25日(月)開催/参加者14名、26日(火)開催/参加者12名

※中央小学校は7月27日(水)、28日(木)開催予定も新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

(4)夏休み学習会 8月1日(月)～4日(木)開催/福祉センター、厚南会館/学習支援ボランティア大学生4人配置

(5)天体観望会 8月12日(金)開催/青少年センター/参加者13名

(6)「ディスカバリー・カルチャー」(プラネタリウム投影と各種文化講座を併せて行う事業/参加者15名

(7)町民体育祭 ※8月21日(日)開催予定も新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

(8)厚真中央小学校芸術鑑賞会(札幌交響楽団5名による楽器演奏)/8月23日(火)開催

【質疑】

池川委員 : (5)、(6)の募集人数は15人だったか。

奥村課長 : 各20人である。

池川委員 : 20人でこのくらいの参加人数か。

奥村課長 : そうである。

9 議案

議案第1号 令和5年度使用教科用図書の採尺について

【質疑】

金光委員 : 小学校については、令和5年度まで今の教科書で、この5年度に次年度以降の教科書を採択するということか。

教育長 : その通りである。

金光委員 : 今回も前回と同じように室蘭市等と一緒に採択する縛りはあるのか。

教育長 : 採択の仕方というのは、市町村が単独で採択する方法と広域的な連携によって教育的な組織をつくって採択する方法がある。胆振では苫小牧市を除く市町村が当時第10採択地区という地区の協議会で採択した。数年前まで室蘭市が独立していたがこの採択地区協議会に加わった。胆振管内では苫小牧市以外はこの協議会で採択された教科書を使っており、この第10採択地区協議会の事務局は室蘭市である。

金光委員 : 例えば今使っている教科書よりも子供たちや教員にとって適していると思われる教科書があっても、その第10地区の中で採択されなければ変更も難しいということか。

教育長 : その通り。だから大きく採択替えをするときは、民間の方々や教員の方々に、10社以上の教科書について事前の調査をお願いする。それを基に当該協議会の委員になっている管内の教育長が、全教科書について調べて自分なりの意見をまとめ、協議会の中での議論を経て採択教科書が決定する。

また、最近では苫小牧市の採択状況が参考にされている。子どもの転居の時に全く違う教科書であった場合、戸惑うことがあり、それが子どもに影響することが懸念されるためである。

池川委員 : なぜ苫小牧市だけ入らないのか。

教育長 : 小さい市町にとっては膨大な事務量となるため。例えば国語については10社、社会については6社とした場合、1年生から6年生までの教科

書を全部見て、児童生徒及び教員の立場から見た時の評価を客観的に評価していく。

- 金光委員 : 実際に教えていらっしゃる先生たちの、意見を聴く場が必要と思われる。  
教育長 : その通りだと思う。教育研究所の学習に関わる部会や教壇に立たれている先生からの意見を聴く機会は必要だと思う。現教科書の中でこういう観点の表現があったらいいだとかこういう手法はこの教科書にあったらいいといったものがあれば、選定時に活かされてくる。

【原案どおり決定】

## 10 協議

(1)教育委員会の活動状況に関する点検・評価について (資料5)

【質疑】

池川委員 : 厚真高校の関係について、厚真町内の中学生を対象に厚真高校がどんな学校であれば進学したいと思うかというようなアンケートを行っているか。

教育長 : 行っていない。

池川委員 : 1番行ってほしい子どもたちの要望を聞かないと。

教育長 : 厚真高校に限定したものは、行えないと思われるが、望む高校はどんな高校というアンケートは可能と思われる。また、進路指導教諭などに子どもたちはどのような学校を望むのかというような事は聞き取れると思う。それに対して厚真高校が満たされてくると当然厚真高校も望まれる高校となると思う。

池川委員 : 進学する対象者の目線で望むものに合わせていかないといけないと思う。厚真高校に対してどういう魅力を求めるかという厚真の中学生にアンケートを取った方がいいのではないか。

教育長 : 手法を工夫する。厚真町の義務教育の中で、繋げてきている一貫教育を高校の進学に合わせて更に伸ばしたいし、例えば子どもたちが中学校まで学んできたものを高校でどんな風に活かしたいかというような聞き方をする事は可能だと思うので、アンケートが良いのか、進路指導の中における先生方の子どもの感触など、実際の子どもの気持ちを掴める方法を探してみたいと思う。

池川委員 : 保護者に対しても、同じようなアンケートをした方が良く思う。

教育長 : それも効果があると思う。保護者の方の要望として捉えることが出来る。

池川委員 : 一番大事な人の要望を聞かずに勝手に魅力化を考えても仕方がない。それともう一点、このパークゴルフ場の修正が使えなくなっているという表現にすると、これは再開を示唆する言い方になるがそういう計画はあるのか。

教育長 : なったというのは廃止というような印象があった。今一部旧中学校跡が養生されている。新町パークゴルフ場を再開させるという進行形の話に変えたという事になる。

池川委員 : それならいいのだが、やっぱりパークゴルフをする人は再開することを期待しているだろうから、書き方、捉え方がある。

(2)令和4年度全国学力・学習状況調査「北海道版結果報告書」への市町村別結果の掲載について (資料6)

【質疑なし】

## 1 1 その他

- (1)教育委員学校訪問（10月）について
- (2)令和4年度移動教育委員会の開催（8月25日）について（資料7）
- (3)8月31日開会令和4年第8回厚真町議会定例会提案議案について
- (4)9月13日開会令和4年第3回厚真町議会定例会提案議案について

### 【質疑】

- 池川委員 : 教員住宅は教育委員会での管轄での補正をしなければいけないのか。一般の人が入っていても教育委員会費で修繕は見なければいけないのか。
- 中村参事 : 教育委員会管轄のものは全て教育委員会費で修繕を行う。
- 教育長 : 教員の住宅を確保するという意味での位置づけをしているためである。当然転任や途中で住みたいという教員がいたらその方を優先する。
- 教育長 : 今日予定されていた案件は以上だが、他に何かあるか。
- 池川委員 : 今話題になっているグーグルレンズという計算式の写真を撮ると全部計算式が出て問題を解けるというダウンロードアプリを知っているか。これは子どもたちのタブレットではアプリを取れるようにはなっていないのか。
- 中村参事 : なっていない。
- 教育長 : 私も気にしていた。今の子どもたちというのは、今の社会は結果をすぐに求められる時代だ。でも子どもの学ぶ意欲やノウハウに結び付けて考えたときに、新たな課題が出てきたのかなと思う。子どもが探求心を持って挑戦するのではなくて、ただ結果だけを求めれば課題を克服しましたということになってしまう。非常に危惧し始めている。
- 長門委員 : 何を解くかというハイレベルな課題にしなければならない。結果に対してどう考察するかという考え方が必要に思う。
- 教育長 : こういう問題を作ってください、これはどうしてなのかという課題を考えなくては行けないのかなと思う。
- 池川委員 : 社会に出てアプリなど便利なものの使い方を覚えていることによって色々活用できるものがあるのだろうが。
- 教育長 : 当然、社会に出れば、そういうものを使えることが一番必要だ。でもそれは社会人として必要なノウハウである。
- 池川委員 : 例えば家庭学習をさせている中で、親御さんが回答できないようなものをこういうものを使って、積極的に親が子どもに教えてくれるのありがたいが、親も面倒くさくてこれで書いておきなさいと言われてればそれで終わってしまう。
- 教育長 : 結果だけを評価する指導をしてしまうと、子どもを評価しきれないのかなとは思ふ。今、社会のあり方が少し極端に言うと学校教育等の現場を無視した流れになってきていて、私も心配だなと思う。
- 池川委員 : スマートフォンで、グーグルレンズのアプリをかざすと、花などは何の花というように出たりと、使い道はある。便利なものを覚えておくべきだとは思ふが、悪用だけしないようにしないといけない。
- 教育長 : それを使える便利さもあるのだけど、もっと色んな原理、筋道だとかというものを子どもたちが学ぶべきだということは、子どもたちに伝えないといけない。今年の全国学力学習状況調査の中で、将来国語や算数がためになると思いますがという問いがあるが、それに対して、なると思うというのは7割～8割以上なのだが、でもこういうアプリがあるから別にならなくてもいいですとなってしまう可能性もある。

- 作田参事 : タブレットについては、学校教育に係る文部科学省からの通知において、文房具として扱えるように子どもたちにしっかり指導していきましようという話になっている。  
先進的にタブレット等を使った授業をしている市の例として、例えば10年ほど前にチャットを使っていいこととしたら、チャットの中でいじめがあった。それでチャットを使ったらダメではなくて、そういった使い勝手のいいものを君たちはどう使ったらいいのかと子どもたちに投げかけて、その使い方を子どもたちにしっかり考えさせて行き、問題を克服した、という話を聞いた。子どもたちの使い方でも文房具としての使い方なのだというところをしっかりと教えていかなければならないと感じた。
- 教育長 : 我々が受けた教育というのは今まで結果だけを評価するものだったが今はそうではないと思う。自分で自らのことをやっていける、そういう価値観を見いだせる人間として、指導していくのがこれからの教育の現場なのかなと思う。今、厚真町もふるさと教育をしながら探求心などを育むことがもっと子どもの成長の色々な可能性を広げるということになるのではないかということを感じて学校側に伝えている。
- 長門委員 : 国語、算数、理科、社会、英語の教育ももちろん大事なだけけれど、道徳の授業が大事になってくると思う。
- 教育長 : 本年行っている「イングリッシュキャンプ」の状況について説明を求める。
- 中村参事 : 第1回目は8月10日、11日の2日間、日帰りで行った。中学生9人が参加した。メニューとしては人為的につくった外国の雰囲気を上野地区の「暮らしこ」というところで行った。税関での対応や買い物のシーンなどALTとコミュニケーションをとりながら行う。2日目についてはALTの方と一緒に苫小牧市の美々川でカヌーの体験を行い、ALTと一緒にボートに乗って、色々ALTに生徒が漕ぎ方を教えるということを行った。2回目はまた生徒のメンバーが変わって9月10日、11日の2日間で開催する予定である。会話が長い分、コロナ対策については抗原キットを用いて体調を確認した上で参加するといった対応をした。
- 教育長 : 私も報告を受けた。子どもたちは参加した前と後ではかなりの変化があったという事を聞いている。コミュニケーションについては英語を話すだけではなく色々なボディランゲージを用いて行っていたとのこと。
- 教育長 : この2日間において子どもたちの変化が見られた。今年のイングリッシュキャンプについてはこれまでの海外の派遣研修事業に近い環境で取り組んだ内容であるので報告をまとめ皆さんにしっかり説明してほしいと担当職員には伝えた。これが将来的な厚真町の英語のコミュニケーション能力を高めることについて子どもたちがどのようにして実践することができたか、また新たな意欲に繋がったかという場の一つとして活用できているし、予算的にもこれは必要であれば年2回以上開催することも考えている。また、手上げ方式よりは、中学1年生から3年生までの間に、1回～2回は経験できる場にしたいとも考えている。
- 池川委員 : スクールバスのドライバーは出発前にアルコールチェックを行っているのか。
- 中村参事 : チェッカーを使って行っている。

## 1 1 次回委員会の開催日程

・ 9月29日（木）午後2時30分（予定）

12 閉会